

令和8年 2月27日(金)

あさひの日だまり

NO.35

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～2学期制を導入致します～

子どもたちにとって意味ある取り組みにしたいと思います

本校では来年度から前後期の2学期制を導入したいと思います。この取り組みは大きな教育課程の変更です。各ご家庭への丁寧な説明が必要です。そこで現在行われています参観日の後の学級懇談会で以下のような内容で説明会を行っています。この取り組みを行うことで子どもたちの学力の向上や学校生活における自主性の伸長に繋がればと願っています。ここより下に説明会の資料を載せさせていただきました。お読みいただきまして現在本校が考えておりますことをご理解いただけましたら幸いです。

1 現行の3学期制

(1) 現在辰野東小学校では以下のような3学期制をとっています。

1学期：4月～7月 (74日) 2学期：8月～12月 (85日) 3学期：1月～3月 (46日)

(2) 通知表を毎学期の終了時に渡しています。

(3) 始業式及び終業式をそれぞれの節目で行っています。

(4) 懇談会を12月の初旬に行っています。

2 2学期制へ移行したいと考えた理由

現在保護者懇談会を2学期末に行っています。(1)の数字から見ると授業日が159日経過した時点で懇談会を行い、その後46日を経て年度末を迎えます。

懇談会においてお子さんの状況や課題を学校と家庭で共有し、自分の課題を自覚したお子さんは3学期から課題解決に向かって歩みだすわけです。しかしながら、3学期は46日と短くすぐに年度末を迎えてしまいます。

子どもたちの姿としてどうしても年度が変わると課題意識は薄れてしまいます。そこでお子さんがじっくりと自分の課題に向き合えるように懇談会の日程を前へ動かしたいと考えました。

そこで年度のちょうど真ん中の9月末に通知表をお渡ししながら懇談会を行いたいと思います。半年が経過したところでお子さんの様子について保護者の皆さんと懇談させていただき、後半の半年で学校とご家庭が同じ目線でお子さんの育ちを見守っていかれるようにしたいと思います。

今まで設定されていませんでしたが、通知票がなくなった夏休み前と年末年始休みの前に「子どもと話そう週間」を設けます。子どもの悩み事を聞き取ってあげたり、休みの過ごし方について相談したりする機会とします。

3 その他の変更点

【学期の変更について】

9月末日をまでを前期、10月1日より後を後期として前後期の2学期制としたいと思います。10月1日に「前期終わり後期始まりの会」を行います。

【通知票等の評価について】

現在学期末に3回お渡ししている通知表を9月の懇談会の折と年度末の計2回お渡しすることとなります。そこで次のような取組を行いたいと考えております。

単元テスト等の評価テストを行った場合は、できるだけ速やかに担任と子どもで課題を共有しながらテストを返却いたします。テストを返却したことをお便りでご家庭へ連絡しますので、お子様がどのような課題意識を持っているか聞き取っていただきたいと思います。その際励ましの声かけやアドバイスをしていただけたら幸いです。

学期の終わりの9月と3月に期末テストを行います。内容は単元テスト等の評価テストの内容から出題します。その結果を通知票で評価いたします。子どもたちにも「単元テストの復習を自分でちゃんとやれば期末テストで

満足できる結果を得られるから頑張ろうね」と声かけをすることで、付けるべき力の定着を促していきたいと思います。

【今後の予定】

ひとまず前後期2学期制は3年間継続しようと思います。3年間経過した時点で各ご家庭と校内の職員からその手ごたえを集約いたします。望むような効果が得られない場合は3学期制に戻します。何とか子どもたちにとって有益な取組になりますよう努力いたします。ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

～3・4年生が社会見学へ行ってきました～ **その場でなければ学べないことがあります**

26日の木曜日に3年生は川島方面へ、4年生は伊那市方面へそれぞれ社会見学へ行ってきました。私もできる範囲で子どもたちと一緒に見学へ参加させてもらいました。まず、4年生と一緒に「上伊那クリーンセンター」へ行きました。「上伊那クリーンセンター」は上伊那中の家庭ゴミや事業所ゴミを一手に引き受けて燃やしている施設です。本当に膨大なゴミが集積されてきます。

まず驚いたのはゴミが煙と最終の燃え残りの物になるまでに何回も何回も燃焼やろ過するフィルターを通過することです。そうすることで膨大なゴミはほんの一握りの個体物ときれいな気体になります。自然を汚さないことをとことん考えた施設でした。



わが家ではたまに裏の畑でゴミを燃やしてしまうことがあります。木の枝であったり汚れた紙くずなのですが、この施設を見るときちゃんとゴミ袋に入れてうちの近くの集積所へ出さなくてはならないということを心から思いました。こんなに地球のことを考えてすごい施設を作ってくれているのにそこを利用しないで家で火を焚いてしまうのは地球の未来にとって本当に罪作りなことだと思いました。

次に3年生の川島への社会見学に合流しました。「かやぶきの宿」でおやき作り体験をしている時間でしたのでかやぶきの宿へ行ってみました。子どもたちがいる部屋をのぞくと、おいしそうに手作りのおやきを頬張っていました。「おいしいかい？」と声をかけると「うんおいしい。ねえ、私のはあんこなんだよ、先生たちはね野沢菜を選んでいいよ！」とお話してくれました。

子どもたちは一口ですぐに食べられそうなおやきを少しづつ少しづつ大切に頬ばっていました。はじけそうな笑顔が本当に印象的でした。この日お友だちや先生たちと食べたおやきの味はずっと忘れないと思います。

こんな子の中にはいました。横にいる子に「おいしかった？」とたずねると「私は食べないの。お家へ持って行ってお母さんにあげるの」と答えてくれました。「少しだけ食べてね あとは家へ持って帰って家の人にあげるの」と答えてくれた子もいました。私は思いました。自分が小学校の頃同じような体験学習をしたら、果たして家へ持ち帰って家の人にあげようなどと思っただろうか。

リュックサックから大事に取り出したおやきをお家の人の前へ両手の掌にのせて渡そうとしているその子の姿が目に残りました。

目の前のお母さんの顔は本当に嬉しそうな笑顔です。真っ白なおやきは何だか口にすることさえもったいない大切な宝物に見えるに違いありません。

子どもたちの言葉や表情には本当に心が温まります。こんな子どもたちとの生活は本当に幸せです。

